

東北庄内地方の農家・韓国全羅北道の農家

—現代家族経営の危機の日韓比較—

加藤 光一

宿題委員から与えられている私の課題は、日韓比較という視点から現在の家族経営をめぐる諸問題について検討しろ、ということであった。但し、社会学プロパーでない私に出来ることは、細々実施してきた過去十数年の日本の農村調査と八九年から実施している韓国の農村調査の結果をもとに、その差異と同質を明らかにすることである。そこで、ロナルド・ポドーアの著書名である『イギリスの工場・日本の工場——労使関係の比較社会学——』（筑摩書房）ではないが、タイトルのような「東北庄内地方の農家・韓国全羅北道の農家——現代家族経営の危機の日韓比較——」とした。しかしながら比較社会学という手法の分析は十分には出来ないであろうから、モノグラフ的な農家調査を実施した経験をもとに、危機の家族経営の実態に迫り、そこから家族経営の再生の方向を考えることにした。

ところで、何故、東北庄内地方と韓国全羅北道という地域の農家を素材としてとりあげるか、を説明しておく必要がある。いくつかの共通点がある。まず第一に、東北庄内地方は周知のように戦前は日本の巨大地主地帯の典型として有名であり、韓国全羅北道は、日本人巨大地主が支配したという点で、基礎範疇は別としても類似点がある。第二に、その結果、農地改革が実施されても、その出発点において、一ヘクタール平均規模の零細農耕とは若干違った、比較的規模の大きい自作農が多く存在した点も共通している。第三に、庄内地方もそして全羅北道もともに、現在でも規模の大きな家族経営が分厚く存在している地域である。第四に、調査地はともに日本でも韓国でも単収の高い生産力地域である、ということである。

こうしたことを前提にして、東北庄内地方は酒田市旧平田村新青渡集落の農家悉皆調査のデータを、韓国全羅北道は金堤郡白鷗面道々里の農家悉皆調査のデータを素材としている。報告当日には別に詳細なレジュメを用意するが以下のような順序で課題にせまりたいと考えている（但し、現在収集整理している資料との関係で若干変更する可能性あり）。

プロローグ——家族経営の日韓比較研究の重要性——

I、調査地のプロフィール

——東北庄内地方（酒田市新青渡集落）・韓国全羅北道（金堤郡白鷗面道々里）

II、日本的「いえ」と韓国的「いえ」

——父系的「農家世帯」の日韓比較——

III、タイトな所有とルーズな所有

——土地の所有と利用の日韓比較——

IV、日本の兼業型と韓国版「出稼ぎ」型

——農家経済の再生産循環の違い——

V、日本的家族経営の危機・韓国的家族経営の危機

——あとつぎ層の存在形態の違い——

エピローグ——現代家族経営の危機の再生と方向——

〔註〕尚、本報告は、かつて実施した農家調査をもとに本年度に不十分ながら補足調査を実施したうえのものであるが、資料的には問題点を多く残すことになっていることも報告しておく。

（北海道学園大学経済学部）